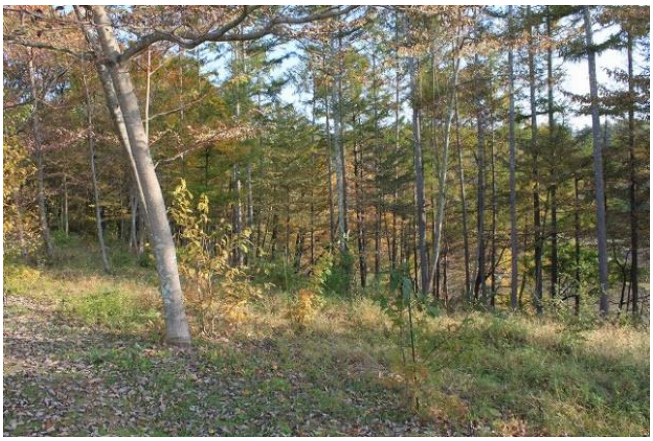
茅野市尖石縄文考古館のボランティア

◆みずならの会

史跡公園を舞台に活動するボランティアグループです。
考古館、個人ボランティアとともに、縄文の森づくりを進めています。

史跡公園園路の整備や森の間伐、史跡公園に植えてあるドングリ（コナラやミズナラなど）の実から苗の育成をして、植栽用の樹木にする活動をしています。

苗がある程度育ったら、間伐した後に植栽して、それらの樹木の観察と保護もしています。



史跡公園で拾ったドングリから育った苗（左）。史跡公園の尖石地区南斜面に植えています。
シカに葉っぱを食べられてしまうことも多いですが、中には育っている苗もあります（右）。写真左寄りの太い木のすぐ右に繁茂している細い木が、育ちつつある植樹した苗です。

このほかにも、史跡公園をより魅力的で親しみやすくするために、園路周辺の山野に咲く花を保護するための草取り、シバザクラの苗を駐車場に植えるなどの環境整備、縄文時代の人々に何らかの形で利用され、栽培もされていた可能性がある「エゴマ」の栽培を史跡公園内で行っています。

園路に咲いたフシグロセンノウ（左）、史跡公園内で栽培したエゴマの収穫（右）

●エゴマおはぎとどんぐりクッキーの試食会

栽培したエゴマを使ったエゴマおはぎと、史跡公園で拾ったドングリを使ったドングリクッキーの試食会を開催することもあります。開催する場合は、ホームページ等で告知をしますが、参加自由ですので興味のある方はご参加ください。ただし、用意した試食分がなくなりしだい終了となります。

どんぐりクッキーの原材料となるコナラやミズナラの実をあく抜きして乾燥させ、粉状にしたものに長芋などをつなぎに加えてタネを作ります（左）。何とも言えない香りがただよいます。現代の私たちには正直「とってもおいしそう」と感じる香りではありませんが、縄文時代の人々は、この香りで「うまそう、たまらん」と思ってよだれでも垂らしたのでしょうか。それとも「まーたどんぐりかよ・・・」とげんなりしたのでしょうか。

エゴマは乾煎りして、すり鉢ですべての実がつぶれない程度にすりつぶします（左）。そのエゴマに味噌等をあわせてタレにします。おはぎにかけて食します（右）。

完成したどんぐりクッキーです（左）。おいしいかどうかは、当館の試食会で確認してみてほしいと思います（左）。試食会の様子です（右）。

◆語り部の会

当館の展示解説に取り組んでいるグループです。茅野市の縄文文化について、会員がこれまで重ねてきた学習を活かし、学芸員とは異なる独自の展示解説をしています。また、他館のボランティアとの訪問交流もしています。
多くの方に好評をいただいて、お礼の手紙やメールが届いたり、次回訪問時にも「語り部の会」の解説を希望されることも少なくありません。

目立つ黄色いベストが目印です。親しみやすい口調でわかりやすく解説しています。

●縄文検定上級合格者も「語り部の会」に参加しています。

当市当館で開催しています「尖石縄文検定」の 3 段階目である上級検定に合格された方のなかには、合格後もさらに勉強会等で縄文文化に対する知識を深めて、「語り部の会」に参加して展示解説をしている方もいます。こちらも、親しみやすくわかりやすいと好評です。

とにかく、この黄色いベストが目印です。お気軽にお声掛けください。

ときどき、学芸員との勉強会や、「語り部の会」で解説の研修もしています。

●尖石縄文学習支援隊

当館のアウトリーチ活動をサポートしています。
当館主催の「縄文教室」の指導補助や、縄文まつりでの火祭りの指導をしています。

それ以外にも、当館で随時受け入れている土器づくり体験や土鈴づくり体験の見本を製作したり、市内の小学校の縄文体験クラブの講師をすることもあります。

また、総合的な学習の時間でも、土器の野焼きの指導を補助することもあります。

クラブ活動の講師を務めます（左）。縄文科の学習支援にも出前講師として指導に行きます。
製作した作品の野焼き（青少年自然の森のキャンプファイヤー場で実施します）（右）